


熱帯性植物の部屋入れ・水草の冬越し		
2005年11月	霜月(しもつき)・雪待月(ゆきまちづき)・霜降月(しもふりづき)・冬半(とうはん)・仲冬(ちゅうとう)・神楽つき(かぐらづき)	●霜対策と越冬対策を行う時期
<p>●朝夕は肌寒いけれど、日中はおだやかな晴天が続きます。さまざまな木々の効用が目を楽しませてくれます。</p> <p>●冬に向けて防寒対策をしっかりと行い、植物の保護を忘れずに!</p>		
庭木の作業	<p>・落葉樹の植えかえが下旬から可能になります。葉が すっかり落ちて、休眠にはいったら はじめましょう。</p> <p>・落葉樹の手入れは、落葉後にとりかかります。常緑樹には 手をつけてはいけません。</p>	
草花の作業	<p>・10月下旬から、ユリの球根の植え付けが適期となります</p> <p>・秋まきした苗や、植えかえしたばかりのものはビニールなどで覆い、風や霜を防ぐ。</p>	

今月の誕生花	サフラン・シクラメン・シンビジウム	
今月の花	オンジウム	
	花言葉/つぼみのままでいて、清楚、可憐	
	温暖な地方の植物ですが、意外と寒さにも強く、温室がなくても栽培できます。	
	<p>原産地は熱帯～亜熱帯アメリカ。ラン科オンシジウム属の多年草。草丈は15～150cm。開花時期は周年。最盛期は8～12月。葉の形状は 革質、披針形。花色は 赤、ピンク、黄、オレンジ、白、複色、覆輪、底白など。別名:スズメラン、パタフライ・オーキッド、群雀蘭(むれすずめらん)</p> <p>日本には、明治時代から入っていましたが、当時は あまり目立ちませんでした。1980年代くらいから シンガポールやマレーシアあたりからの切花の大量輸入が始まり、品種改良もされ、注目を浴びるようになりました。</p> <p>群雀蘭の日本名のとおり、可愛らしい雀が群れ飛んでいるような、微笑ましい花です。長い花茎に 可愛い小花をいっぱいにつけるので、花束などの主役にはなれませんが、どんな花が相手でも うまく引き立て役として おさまってくれます。「可憐」という 花言葉は、うなずけるところです。</p>	

## 熱帯性植物の部屋入れ

●初夏から秋にかけて 元気に育ってきたインドゴムや フェニックス、ベゴニアなどの熱帯性植物の鉢物は、これから冬にかけては、温室や屋内に入れて 寒さから守ってやらないと 来年まで持ちこたえることができません。

### ●室内に取り込む時期

まだ暖かい時期から やたらに温度の高い室内に取り込むのはムダです。それに これから花芽ができる西洋ランなどでは、かえって タメになりません。寒さに対する抵抗力をつけてやることと、花物では 十分低温にあわせたのちに 暖めてやることによって、立派な花が咲くからです。寒い地方では早めに、暖かい地方では遅くするのですが、大体、**11月下旬が基準**です。種類によっても違うので、高温性のものは、もっと早くすることが必要です。

### ●秋に植えたものは大切にしましょう



秋に植え替えをしたような鉢物は、必ずしも十分に根を張っていないので、冬越しの途中でダメになってしまう場合があります。こうしたものは、日のよく当たる軒下に入れておくか、少し早めに室内に取り込み、冬中もやや温度を高めにして 大切に扱うのが安全です。

根張りのよいものは、根張りが悪いと、低温冬越しが楽です…。に耐えられません。

### ●どんな場所に入れるか？

温室でもない限り、冬にも美しく元気に植物を育てることは、困難です。春まで生かしておくには、窓辺や光の入る室内にいい、水や肥料を控えめに管理するに限ります。もうひとつ大切なことは、高温時と低温時の温度差を少なくすることです。日中は、窓を開けて温度を下げ、夜間は暖房して暖かくしてやるようにしましょう。窓を開けずに 密閉していると日中30度にもなり、抵抗力がなくなります。窓を開け閉めして 日中15度、夜間5度程度に保ちましょう。



●3月下旬になるまでまったく伸びませんが、秋のうちに十分根を張っていれば心配ありません。やがて伸びだしてくるので、必ず支柱を立てて待ちましょう。

## インドゴムノキ

鉢内に十分 根をはったものであれば、外から光線のはいる部屋の中に置いて、夜間だけすこし暖房があれば、まず大丈夫冬越しします。

### ポトス

元来、樹林のなかの植物なので 弱い光線の下で よく育ちます。

窓辺に置いたり、つり鉢ならば上から吊り下げます。年中、部屋のなかでも よく育ちます。

### アナナス類

普通の家で 冬越しできるタイプが、普及しています。

樹木の枝にくっついている植物なので、弱い光線でも育ちます。ポトスと同じように 長い間 部屋の中においても枯れません。



## ハイビスカス

美しい花の咲く植物は、だいたい よく日が当たることを好みます。

温室やサンルームがない場合は、窓辺に置くか、ときどき暖かい日に 戸外に出して日に当てます。

枝についているつぼみは、初冬の窓辺でも つぎつぎと咲いてくれますが、新芽を出してまでもは咲いてくれません。

## 水草の冬越し



スイレンやハスなどは、晩秋になると 葉が枯れて、水底の土中で 静かに休眠にはいります。浅い容器では、水が少なくなり 芽や根茎の部分まで露出するので、**水が少なくならないように 補給してやるか、深いところに集めてやります。**ホテイアオイなど 冬の寒さに弱いものは、水温の高い温室内の水槽に保護しないと、冬越しできません。冬越しが むずかしい場合は、春になって 新しく 苗を買うほうがいいのかもかもしれません。